



話題を追って イノシシはじめ鳥獣被害防止に苦戦・奮闘しています

◆国の農作物に関わる鳥獣被害対策3本柱

- 農地周辺部の誘因物質の除去(生息環境管理)
放任果樹、野菜等の収穫残さ、落ち穂、2番穂、家庭から出る残飯の処分。藪の刈り払いや除間伐による野生鳥獣が出没しにくい環境づくり
- 侵入防止柵の設置(被害防除)
電気柵やワイヤーメッシュ柵を用いた被害防止(正確な維持・管理が必要となる)
- 有害捕獲
被害を及ぼす鳥獣を駆除する対策。わなや銃などによる捕獲

◆宮城県内イノシシ農業被害報告の推移



イノシシは年2回の出産と多産(5~6頭)であり、温暖化や先の東日本大震災後、福島沿岸部での異常生殖も相まって、北限とされてきた宮城県南を越えて東北地方にも広く生殖するようになりました。

◎平成24年度末イノシシ生息数 ※宮城県統計による
=ヘイズ法による東北ブロックの推定生息数(※1)×宮城県の生息割合(※2)
=105,168頭×26.2%=**27,554頭**

それに伴って、農作物被害をはじめ市民生活での安全・安心面での不安が大きくなっています。また、対策への支援や捕獲後の処理問題などを含め、集落的な問題としての取り組みが必要となっております。
宮城県は平成23年度より生息域拡大を防止する観点から県北部において「環境税」を活用し、個体数調査を実施しており、平成27年度からは国の「指定管理鳥獣捕獲等事業」を活用しています。



さとう仁一議員も、地域要望により積極的な活動を共に行い、東北農政局や大崎市・JAなどを鳴子会場・上野目会場に招き、国・市などの取り組みと意見交換会を企画実施しました。

事例 集落ぐるみで取り組むイノシシ対策 宮城県柴田郡柴田町葉坂行政区

- プロフィール
世帯数82戸(内農家67戸、水田46ha、畑68.6ha)の農村地域
- 被害状況
近年、イノシシによる農作物被害が増加(水稲・じゃがいも・かぼちゃ・そば)、農地法面掘り起こしによる被害も多発
- 取り組み
地域住民合意のもと、「葉坂地区鳥獣被害対策協議会」を設立。平成28年度、県の集落ぐるみ鳥獣被害対策モデル事業に指定。被害対策等に関する研修を通じ、電気柵の設置等集落ぐるみの被害対策に住民参加型で取り組んでいる
- 推移
平成28年度、電気柵設置後のイノシシ捕獲頭数は設置前13頭から45頭に増加。電気柵を設置した農地では、イノシシによる農作物被害は皆無となった
- 課題・展望
電気柵の効果を維持するための頻繁な草刈りの省力化。地域内にわな猟免許所持者がいないため、所持者を増加させる必要がある。また継続的な支援が必要である

大崎市では、これまでの熊などによる鳥獣被害に加えて、近年、特にイノシシの農産物に関わる被害が深刻な状況にあります。宮城県内においても、県南部から仙台市等の県中部、そして県北部においても目撃や被害が確認されており、県内分布域も確実に広がっている状況にあります。平成10年代以降に急激に捕獲頭数は増え続け、平成20年度に1,000頭を超え、平成22年度以降は2,000頭以上を捕獲するまでに至り、平成25年度以降は5,000頭前後の捕獲頭数で推移しています。

◆大崎市における有害鳥獣被害額推移

年度	被害総額	ツキノワグマ		イノシシ	
		被害額	捕獲頭数	被害額	捕獲頭数
H25	1,706,000	780,000	-	146,000	-
H26	5,102,000	2,201,000	15	420,000	0
H27	3,191,000	443,000	1	302,000	0
H28	5,734,000	1,500,000	17	2,000,000	0
H29	調査中	調査中	4	調査中	24
合計	15,733,000	4,924,000	37	2,868,000	24

◆大崎市有害鳥獣被害対策について

鳥獣被害対策実施隊による捕獲や追い払いをはじめとした地域ぐるみの被害防止活動や侵入防止柵の整備等の鳥獣被害防止のための取り組みに支援があります。

<大崎市有害鳥獣被害対策実施隊>

鳥獣被害防止特措法に基づき、市町村は、被害防止計画に基づく捕獲、防護柵の設置といった実践的活動を担う実施隊を非常勤特別職の公務員として対応します。隊員の報酬や公務災害補償措置を条例で定めています。

◎優遇措置

- ①技術講習免除 ②狩猟税免除 ③公務災害の適用 ④ライフル銃の所持許可の特例

<有害鳥獣対策事業について>

- ◎ソーラー電気柵等を導入する際の導入経費助成
- ①補助率等:補助対象事業経費の1/2以内
- ②補助金上限額:30万円/予算の範囲内



後援会会長挨拶

皆様におかれましては、健康かなお正月をお過ごしのこととお察しいたします。

「心」もろいのが18歳「骨」もろいのが81歳!と言われる世代となり、益々、心身ともに健全な健康社会の大切さを感じてなりません。

人口減少社会の中で、増えていく世代は65歳以上の世代であり、長寿社会の活力創出に、皆さんとともに知恵を出し合いたいと思います。子どもの減少による幼保施設や学校の統廃合など、広域化する教育環境の変化を見据えた地域教育の大切さを強く感じております。さとう仁一議員が唱える『郷学』の理念の実践であります。

本年も、皆様とともに大崎市の発展を願いつつ、皆さんのご健康をお祈りいたします。

さとう仁一連合後援会会長 遠澤啓子

さとう仁一挨拶

ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様におかれましては、新春の陽光に本年の希望を願ったことと思います。

昨年は、皆様に健康上の心配をおかけいたし申し訳ありませんでした。お陰様で順調に回復いたしました。有難うございました。

昨年は、気象異常による災害、北朝鮮問題、イノシシなどの鳥獣被害、コメ政策など、不安の多い一年でした。そんな中でも大崎耕土が世界農業遺産認定を受けたことは、先人の偉業と新たな希望への誇りとなります。

本年も皆様とともに地域の賑わいや農林業・商工業の活性化、子育て支援の児童館や不安の無い医療福祉の充実に努力してまいります。

皆さんのご健康をご祈念するとともに、お知恵を賜りますようお願い申し上げます。

大崎市議会議員 さとう仁一